

イソタケルの意味するもの その(一)

三井 淳

神の猛五十 真相に迫る

いそたけるのかみ

⑦

イソタケルについても、
韓国の言葉で解釈しようとした先学は存在する。その唱えた。

伊西は加
羅辰韓境上
の強国であ
り、三国史
仁紀二年条の分注に、任那
(みまな) 人蘇那曷叱智
(そなかしち) の渡来にま
つわるエピソードを伝えて
いるが、この時穴門(あな
と。長門)の伊都都比古
で、われこそ倭王であると
豪語した。仲哀紀の八年、
天皇の筑紫巡幸の場面で、
伊勢縣主(いとのおがため
し)の祖「五十迹手(いと
て)」が伺候奉り、天皇は
その労に報い「伊蘇志(い
そし)」の名を下賜したと
ある。上垣外氏は伊都、伊
西の勇者」即ち「イソタケ
ル」を中心として母国の再
興を図った、これが五十猛
靚、五十迹手、伊蘇志はす
べて伊西を負うており、イ
ソタケルのモデルである。

一つに、「倭人と韓人」(講
談社学術文庫)というはな
はだ興味深い本がある。著
者は、上垣外(かみがい)と
憲一という大学の教授であ
る。この篇の命題が、まさ
しくイソタケルの解明なの
である。上垣外氏は、イソ
タケルの「イソ」とは、現
在の慶尚北道の「漕道(チヨ
ント)」に当たる「伊西
(イソ)」のことを言い、
「タケル」は「勇者」つま
りは「王」、総じてイソタ
ケルは、「伊西の勇者もし
くは王」を意味していると
記新羅本紀の儒礼尼師今
(ユレニサクム) 十四年条
(二九七)に、新羅の原形
である斯羅(サラ)との交
戦の様相が描かれている。
伊西軍は、斯羅の都城金城
(コムソン)を包囲したこ
とさえあるのだが、最終的
には大敗を喫し、伊西は滅
亡に瀕した。それに伴い多
くの伊西人が倭国へ亡命、
その長(おさ)である「伊
西の勇者」即ち「イソタケ
ル」を中心として母国の再
興を図った、これが五十猛
神話の歴史的背景である
として、日本書紀にその根

と推察した。「伊都(伊靚)
||伊西、itsu(itso)
||isoeと音がきわめて
近いことを考えれば、イソ
国出身の王者、といった名
前と考えられる」「(倭人
と韓人)107頁)。
しかし上垣外説には重大
な難点がある。氏の言う
「伊靚(いと)」は、明らか
に魏志倭人伝の「伊都国
(いとこく)」のことである。
魏志倭人伝の記事は、三世
紀なかばの主に九州の状態
を伝える。上垣外説によれ
ば、伊西人の大量流入は、
伊西が滅亡に瀕した西暦二
九七年以降のこととなる。
(五十猛歴史研究会員、
みついあつし)

日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おす
◇木曜日は内藤博之さんの「カウデ